

# こどもセンター Panem

(光の園子ども家庭支援センター)

子どもたちは、みんなの子ども！  
みんなの子どもを、みんなで見守る！

こどもセンター Panem では

① 電話・来所相談 ② 預かり機能 ③ アウトリーチ支援 ④ 子育て法律相談 ⑤ 心理相談 等を通して

直接子どもに触れながら、地域の子ども・里子・一時保護の子ども・児童養護施設の子どもたちの育ちを見守っています。

法人全体の社会的養育施設機能を生かしながら地域の子育て支援総合センターとして、24時間365日、すべての子どもの居場所となるように取り組んでいます。



## 民間ならではの支援を

子育てや家族を取り巻く環境は日々変化しています。現代では社会全体が24時間稼働し、夜間休日問わずに勤務する人が少なくありません。また核家族化や近隣住民との関係が希薄となっていることで、家庭はますます小規模化・孤立化しています。そのため、家庭内だけで子どもを養育することがとても難しくなっており、具体的で直接的な支援である短期の預かり支援の必要性が年々増していることを感じています。



## 里親支援（レスパイトケア）

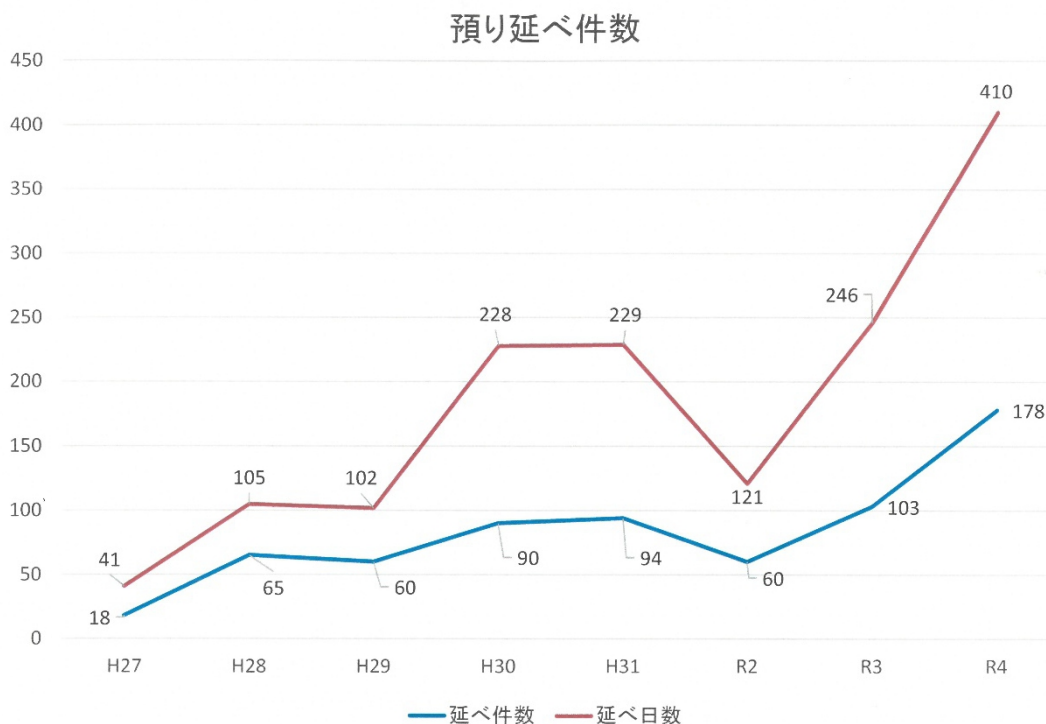
大分県では全国に先駆けて里親推進に取り組んできました。平成16年に7.4%だった大分県内の里親委託率は、令和2年度には約35%以上と全国でも高い水準となり、早くから里親推進を行ってきた成果として表れています。実家庭で暮らすことができない子どもたちが、里親という家庭環境で暮らすことができるように、今後ますます取り組んでいく必要があると考えています。

ただし、里親委託が進んでいるからこそ見えてくる課題もあります。一番の課題は、里親にかかる負担があまりに大きいことです。個人の家庭で長期間にわたり社会的養育の子どもたちを支えていくのは簡単ではありません。特に乳幼児や低年齢から委託された子どもたちが思春期を迎える頃、不調となるケースを多く目の当たりにしてきました。里親と子どもがお互い幸せに暮らしていくことができるように、具体的な支えの必要性を感じています。

また、兄弟姉妹が別々の里親や施設で暮らしていることも大きな課題の一つだと感じています。里親一家庭に複数の兄弟姉妹を一緒に委託することは難しいケースが多く、一人ずつ違う里親へ委託されていることがしばしばあります。

こういった状況から、光の園では里親も里子も一緒にサポートしていくために里親レスパイトケアを行っています。令和4年度は延べ178件410日受け入れており、利用件数は年々増加しています。

### こどもセンターPanem レスパイトケア利用推移

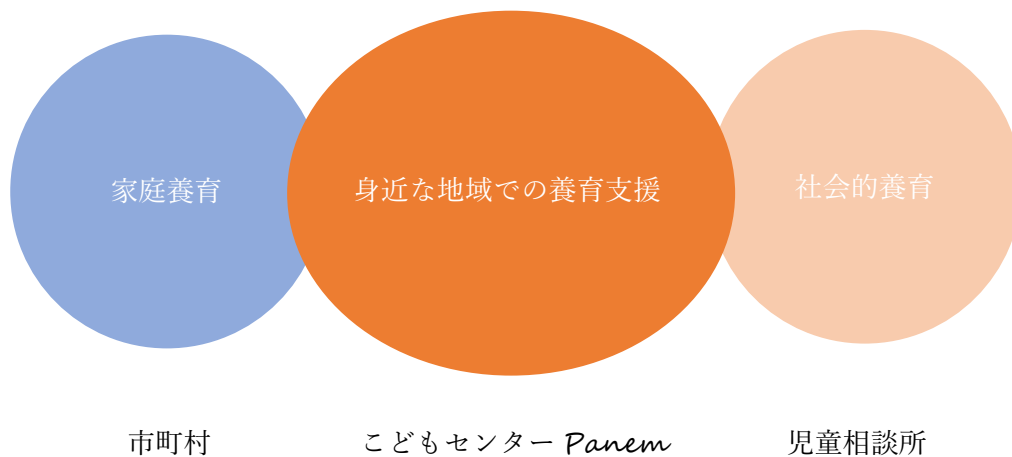


レスパイトケアで里親から子どもを預かることで、里親の休息や子どものアセスメント、別々の場所で暮らしている兄弟姉妹の交流などを実施しています。

里親さんには光の園を親戚の家のような感覚になってもらえるように日々関わっています。また、利用した子どもたちが里親宅に帰った際、「楽しかった！また光の園に行きたい！」と言ってもらえるような温かい関わりを心がけています。

里親も地域で暮らす子育て家庭。里親だけで子どもたちを育てていくのではなく、レスパイトケア等を通じて、施設も同じ仲間としてみんなと一緒に育てていく同伴者としての視点が重要だと感じています。

## 社会的養育施設による子ども家庭支援の新たなかたち



## まとめ

以前は親戚や隣近所の方に一時的に子どもを預かってもらうことは当たり前のことでした。現代では親戚が近くにおらず、近隣の方との関係が希薄な家庭が一般的となったことから、夜間や休日に子どもを預けることへのハードルがとて高くなってきています。

地域で暮らす全ての子育て家庭・里親家庭の「親戚」として、子どもたちを自然に預かっていくことが、子どもも保護者も安心して暮らしていけるまちづくりになると確信しており、私たちのミッションだと感じています。



社会福祉法人 別府光の園  
児童養育施設 光の園  
保 育 所 光の園  
児 童 広 場 光の園  
ク ラ ブ 光の園  
共同生活援助 グループホーム

こどもセンター  
Panem  
光の園 子ども家庭支援センター  
別府市子ども家庭総合支援拠点支所  
光の園 一時保護所